



くさしぎ便り No.5

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2013年8月発行 e-mail kusasigi@nifty.com

「くさしぎ便り」第5号をお届けします。

とうもろこし、のらぼう、トマト、きゅうり…、四季折々の新鮮な野菜をファーマーズセンターや農家のスタンドで安く手に入れられるのは、あきる野市民ならではのぜいたく。また緑濃い畑が私たちの気持ちをリフレッシュしてくれています。そんな大切なあきる野の農業のこと、うかがってみました。

「あきる野っぱら 学びの場 その5」 ご報告

4月22日あきる野ルピアにて開催

あきる野の農業を考える

もりお
話題提供者 石井司夫さん



● いい もりおさんプロフィール ●

1938（昭和13）年生まれ。山田で代々

東海花の展示会の鉢物の部で「農林水産大臣賞」受賞など数々の賞を受け、栽培技術の高さが評価されている。また市の農業委員、東京都花卉園芸組合連合会の会長などの役職も多く務め、農業の現在を担っている。

養鶏・養豚、ぶどう園、 ハウス栽培と手掛けて…

私の家は代々、山田で農業をしています。子どもの頃は、家の手伝いは当たり前で、長男だったので色々とお手伝いをしていました。

当時は米や麦を中心に、戦争中だったこともあって自給自足の一環として養鶏や養豚も手掛けていました。

戦後になるとまず野菜が必要とされ、野菜作りを柱にしました。ところがじきに供給過多になり、思い切ってぶどう園に切り替えま

した。その頃、網代にボート場があり観光客がたくさん来ていたのに目を付けたわけです。味もよく、ぶどう狩り用の観光園を作ったりして、かなり売上げがありました。山田では他にも20軒以上がぶどうをやっていました。私も高校を終えると同時に家業に就きました。

ぶどう園を10年ほどやった頃に、山田地区の基盤整備の話が出てきました。農業人口も減ってきており機械化は避けられないと話がまとまって、地区全体で基盤整備をして道を広げ、畑の整備をしました。うちのぶどう園も整備にかかり、養鶏と園芸のハウス栽培に転換しました。それから養鶏は10年、ハウスは12、3年やりましたが、今は花卉栽培が中心です。花が好きなので、切り花から入り、現在は鉢物主体です。

秋川は夜冷えて、昼暑いので切り花の発色がよいという地の利があります。私は大田、荻窪、江戸川、青梅の花市場に出していますが、花市場では五本の指に入らないと、値が出ないので、気が抜けません。

たとえば、シクラメンは夏場の暑さで病氣

になりやすいので、いつも鉢をトラックで小淵沢に運んで避暑をさせていました。今はトラックで運搬するのも大変なので、シクラメンは止めましたが。

プロの農家というのは、何日に木瓜ぼけの花が欲しいと言われたら、それから逆算して、その日に花が咲くようにハウスで温めたり、早めに暗い場所に入れたり、逆に日に当てたり、あらゆる技術を駆使してその日に咲かせます。

アパート経営を副業とする農家も多いのですが、私は農業だけでここまでできました。

製茶工場を放射能汚染で閉鎖

山田はもともと傾斜地で、土が流れやすく、予防のために畑のまわりにお茶を植えていました。その葉を蒸して手でもみ、農家の自家用にしていたのですが、手間がかかるので、昭和32年に組合をつくり、都の補助金をもらって製茶工場を建て、賃でお茶に加工していました。ところが、3.11以後にお茶から放射能が出て、加工ができなくなり、ここで組合を解散することになりました。56年間やってきたので残念ですが…。農業を取り巻く情勢が変わってきたということでもあります。



❖ 参加者の質問に答えて ❖

◎ TPPについてどう思いますか？

自由に輸入材が入ってきている林業の状況を見れば、TPPで自由化された後の農業を考える手がかりになると思います。ドイツでは必要に応じて木を切っていくそうですが、日本はそれができていない。雑木林は30年、杉ヒノキは50年のサイクルがあり、それを守つ



ていねいに、農業の現状を語る石井さん

ていくことが林を守ることになるのですが。農作物はもっとサイクルが短く、効率がいいので値崩れしやすいですね。価格では外国産のものに太刀打ちできないと思います。消費者も少し値段が高くても、国内産の物を買うという意識がないと日本の農業は守れないと思います。私が関わっている花市場でも、切花は韓国、中国、コロンビアなど時期によっては外国産がどんどん主力になっています。

◎地元農産物の安全性は？

ファーマーズに出荷されている野菜はすべて生産履歴を持っていて、いつ農薬をかけたかなど追求ができます。それを1ヶ月に一度チェックして基準に合っていないものがないか見ています。放射能についても東京都や農協が抜き打ち検査を実施しています。

無農薬野菜についていえば、完全に無農薬と言えるようになるまでに、3年はかかります。無農薬でつくるには、やはり土作りが大切です。私は鉢の土をつくるのに魚粉や骨粉を入れて、1年間かけます。それを65度～70度の蒸気で殺菌してから使い、最小の農薬で最大の効果が出るように心がけています。あきる野の土地にあった作物、のらぼうやほうれん草はほとんど農薬を使わずに作れますよ。

◎農業の担い手の世代交代は？

生産手段である農地が、代々相続されてきたものであることを考えると、本当は子どもが後を継いでくれるのが一番いいのです。

が、なかなかそうはならないですね。それで、援農ボランティアをお願いしたり、定年退職者向けの講座を実施したりしていますが、根本的な解決にはなっていません。

農業団体なり行政なりが、借地権をきちん

と制度化して、農家が安心して農業を志す若者に土地が貸せるようにならないと、世代交代は進まないのではないかと思います。

我が家では今、息子夫婦が花壇苗を頑張ってくれています。出荷の柱に育ってくれるといいなあと思っています。

◎学校給食に地元産の提供は？

地元野菜の給食は地産地消にもなり、農家からすれば量もはけていいのですが、その分まとまった量が必要になり、それに対応できる態勢が農家の側にまだできていないのが実情です。今、農協が中心となって調整を始めています。また、給食の材料は入札で決まるので、他の八百屋さんや競合するやっかいな面もあります。個人的にですが、私も市内の保育園のひとつに作物を出していますよ。

◎これからの農業について一言。

花の市場で言えば、経済の厳しさを反映して需要は衰退の一途で、需要拡大の方策をさぐっているところでは。また原油が値上がりすれば、ハウス栽培はたまりません。夏野菜は地温が10度以下にならないようにしなくてはなりませんが、それをすべてボイラーで賄うとすると大変な経費です。これからの農家は、作物を作る技術とともに、世の中を見て何が売れるか、また経費削減のためのどうしたらいいかを考え、必要なら大型の設備投資もしていく勇気がいると思います。行政や農協は融資制度を充実させて、それを後押しして行ってほしいです。

農業は食糧を作る大事な仕事です。そして育てている野菜は、酸素を出して環境の浄化もしています。皆で、農業を大切に、盛りたてていてもらいたいですね。

「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。昨年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

昨年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どういう市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- ①市民といっしょに市政を考える。
- ②市の現状と問題点を市民に情報発信する。
- ③開発優先ではなく、環境優先(放射能への危機感を持つ)。
- ④マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者になりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

(^_^)/ 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? ひとりの市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・ e-mail kusasigi@nifty.com

・ 〒190-0154 あきる野市高尾 182-1

TEL&Fax 042-596-4569(佐橋)



☆ ★ くさしぎニュース ☆ ★

辻よし子市議候補、惜しくも次点!…4年後はぜひ「くさしぎ」を

6月23日に行われたあきる野市市議選に、「くさしぎ(草の根市議と市政を考える会)」では、会員の辻よし子候補を推して活動しました。結果は1012票ものご支援をいただきましたが、98票届かず次点でした。

くさしぎから市議を送りだせなかったのは本当に残念ですが、市民の立場から候補者の公約を皆でつくり、その実現のために精一杯の活動したこと、それが1012名の支持に広がったこと、どちらも今後、あきる野の市政を市民に開く契機になると自負しています。これから草の根市議を送りだすべく皆で市民力を高めていきます。ご参加お待ちしております。